

民生委員を支える仕組みに関する考察

— 民生委員の負担や不安軽減のための身近な相談窓口の創設を目指して —

難波 万琴

本稿では、筆者自身の実習中に感じた民生委員の重要性から、民生委員の現状を明らかにし、負担感や不安に対する支援について考えていく。

序章では、地域福祉の現状を明らかにしたうえで、地域福祉をめぐる動きの中での地域共生社会づくりの推進における民生委員の役割の重要性を明らかにする。

第 1 章では、民生委員の役割や基本姿勢などをはじめ、現在民生委員がどのような活動を行い、現状に立たされているのかを明らかにする。また、民生委員が活動を行う際に存在する課題にはどのようなものがあるのかを、4つの文献から整理する。そのうえで、本稿で取り上げる課題を 2 点に絞り、考察の視点とする。

第 2 章では、現在筆者が住む山形県酒田市における民生委員の活動の現状を、活動内容の件数や連絡調整回数など、数的データから分析する。

第 3 章では、酒田市役所職員の方に協力いただき、酒田市における民生委員を支える仕組みについて行ったヒアリング調査の結果をもとに、「事務局の移管」「ガイドラインの作成」「活動費援助」「民生委員対象の研修会」の 4 点の課題を明らかにする。

第 4 章では、先進事例として三重県名張市に設置されている「まちの保健室」を取り上げ、民生委員を支える仕組みとして有効な点は何かをまとめ、提案に繋げていく。

最後に、結論として、上記の分析をもとに「酒田市におけるコミュニティセンターを会場とした民生委員の相談窓口の創設」を、酒田市における民生委員を支える仕組みとして提案を行う。